『過程の演習　新国語問題集』補足・解説・解答

1　藤井懶斎『仮名本朝孝子伝』

●印の単語（鍵になる語）の正確な意味を記せ。多義語については、今回の意味以外の意味も記せ。

問1　傍線部A「わざとしければ」

●わざ〔多義語〕

傍線部D「いささか憂ふる色なかりしとぞ」

●いささか――なし

●憂ふ

●色

●――とぞ

傍線部E「むべならずや」

●むべなり＝うべなり

●――ずや

問2　傍線部B「石瓦を内にみててよくしたため」

●みてて↓満（充）てて↓満つ＝タ行〔　　〕段活用

●したたむ〔多義語〕

問3　傍線部C「これを酒のあたひとなさば、生きてましますほどは、えも尽くし給はじ」

●まします

●えも――じ

◎問4　傍線部F「誠あらはる」とあるが、そのあらわれた「誠」とは何か。

1　**☆傍線部を延長**し、「そらごとによりて誠あらはる」全体を考える。

2　「そらごとによりてあらはるる誠」とは何か、と問いを置く。

3　「そらごと」の修飾を考える。「老いたる父母の心を慰め、憂へをとどめんとて、やむことを得ずする」そらごと、と内容を当てはめる。

4　その部分を訳し、字数を合わせる。

（解答例）「老いた父母の心を慰め、心配をさせないようにしようと考えて、やむを得ずうそをつくことによって現れる、親を思いやる子の心。（59字）」

※訳すだけでだいたい字数通りになる問いと、かなり言葉を組み替えたり削ったり（あるいは足したり）しないといけない問いに分かれる。やはり、いわゆる難関大の問いには、後者の、手間がかかるものが多い。

【冊子の解答例】太字は別解、補足。

問1　A＝生業としたので　**仕事としたので**

D＝全く心配する様子はなかったということだ

E＝もっともなことではないか

問2　①＝こがね

②＝絵屋夫婦が、家にお金があるかのように思わせて、貧しい状況を理解して遠慮する酒好きの父に、心置きなくお酒を飲んでもらうため。

問3　**この**箱にいっぱいの金を酒代にしたら、父上が生きていらっしゃる間は、**（この金を）**使い果たす**（使い切る）**ことはおできにならないであろう。

問4　真実を言って嘆かせるのではなく、父母を安心させ心配させないために、やむを得ず嘘をつくという行為に表れた孝行心。（55字）

老いた父母の心を慰め、心配をさせないようにしようと考えて、やむを得ずうそをつくことによって現れる、親を思いやる子の心。（59字）

［1］次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、後半の「論」以下は作者の論評である。〈鹿児島大〉

（注1）寛永の頃にや、京都小川の町出水といふわたりに一人あり。衣装に絵かく事をAわざとしければ、絵屋勘兵衛とぞいひける。老いたる父を養うて孝なり。父酒を好む。絵屋夫婦しばしば買ひてすすむ。しかれども父その家の貧しきを知りてければ、飲めども心楽しまず。あるいは飲まず。絵屋これを憂へ、夫婦ひそかにはかり、年の暮れ行く程、こがね入るべき箱ひとつ求めいでて、B石瓦を内にみててよくしたため、夫婦これを（注2）かきて父が前に出て、「過ぎし年まうけし物、いつにもまして侍れば、（注3）債などみなつくのひて、これほどぞあまり侍る。Cこれを酒のあたひとなさば、生きてましますほどは、えも尽くし給はじ」といへば、父うち驚きて、喜びに堪へず。それよりこそ、思ふさまに酒をば飲みけれ。老い朽ちて死にけるまでにまことに富めりとのみ思ひけるほどに、Dいささか憂ふる色なかりしとぞ。

論

人は、かりにもそらごとすべからず。よろづの道、これをいましめたり。ただし、老いたる父母の心を慰め、憂へをとどめんとては、やむことを得ずして、そらごとする時もあるべし。そらごとせぬに誇りて、父母の憂へ恐るべき事をも口にまかせて言ひ散らすは、人の子の心にはあらず。絵屋がそらごと、それEむべならずや。そらごとによりてF誠あらはる。

（藤井懶斎『仮名本朝孝子伝』による）

（注1）　寛永……江戸時代前期の年号。
（注2）　かきて……担いで。
（注3）　債などみなつくのひて……借金などすべて返済して。

【原文】

寛永の頃にや、京都小川の町出水といふわたりに一人あり。衣装に絵かく事をわざとしければ、絵屋勘兵衛とぞいひける。老いたる父を養うて孝なり。父酒を好む。絵屋夫婦しばしば買ひてすすむ。しかれども父その家の貧しきを知りてければ、飲めども心楽しまず。あるいは飲まず。絵屋これを憂へ、夫婦ひそかにはかり、年の暮れ行く程、こがね入るべき箱ひとつ求めいでて、石瓦を内にみててよくしたため、夫婦これを「過ぎし年まうけし物、いつにもまして侍れば、えも尽くし給はじ」といへば、父うち驚きて、喜びに堪へず。それよりこそ、思ふさまに酒をば飲みけれ。老い朽ちて死にけるまでにまことに富めりとのみ思ひけるほどに、いささか憂ふる色なかりしとぞ。

論

人は、かりにもそらごとすべからず。よろづの道、これをいましめたり。ただし、老いたる父母の心を慰め、憂へをとどめんとては、やむことを得ずして、そらごとする時もあるべし。そらごとせぬに誇りて、父母の憂へ恐るべき事をも口にまかせて言ひ散らすは、人の子の心にはあらず。絵屋がそらごと、それむべならずや。そらごとによりて誠あらはる。

（藤井懶斎『仮名本朝孝子伝』による）

問1　傍線部A「わざとしければ」、傍線部D「いささか憂ふる色なかりしとぞ」、傍線部E「むべならずや」をそれぞれ現代語訳せよ。

A［　　］
D［　　］
E［　　］

問2　傍線部B「石瓦を内にみててよくしたため」について、以下の問いに答えよ。

①　「石瓦」は何の代わりなのか。本文から抜き出せ。

②　何のためにこのようなことをしたのか。説明せよ。

［目安］60字

問3　傍線部C「これを酒のあたひとなさば、生きてましますほどは、えも尽くし給はじ」を、指示語の内容と主語を明らかにして現代語訳せよ。

◎問4　傍線部F「誠あらはる」とあるが、そのあらわれた「誠」とは何か。本文に即して六〇字以内で説明せよ。

【解答】

問1　A＝生業としたので
D＝全く心配する様子はなかったということだ
E＝もっともなことではないか

問2　①＝こがね
②＝絵屋夫婦が、家にお金があるかのように思わせて、貧しい状況を理解して遠慮する酒好きの父に、心置きなくお酒を飲んでもらうため。

問3　箱にいっぱいの金を酒代にしたら、父上が生きていらっしゃる間は、使い果たすことはおできにならないであろう。

問4　真実を言って嘆かせるのではなく、父母を安心させ心配させないために、やむを得ず嘘をつくという行為に表れた孝行心。（55字）